

「活用」の力を育てる評価問題

小2 国語
はっぴょうしよう
「あったらいいな、こんなもの」

評価問題例

< はっぴょうメモ >

おわり	話の中心	話しはじめ
-----	------	-------

< カード >

イルカのおびれ	どこでももぐるん	
足につける	海にもぐる	
水の中でもいきができる	海の中をたんけんしたい	

たかしさんは、「どこでももぐるん」というものを考えて、話したいことをカードに書きました。カードのことをばをつかって、話すじゅんじょがわかるように「はっぴょうメモ」をかきましよう。

評価問題のポイント

本単元の主な学習課題である「話す順序を考える」ことについて問う問題である。問題では、バラバラな順序で提示された話の内容（カード）を、「話しはじめ」「話の中心」「おわり」という3つの大きな部分に分けて整理し、さらに、「形や大きさ」「はたらき」などの観点で順序を考えることが求められる。

児童は、単元の一斉指導やペア学習などで、話す事柄の順序を考えることを繰り返し行ってきた。ここでは、再度、同じ形式の活動を行わせることで、児童一人一人が、この単元での指導事項を身に付けることができたかどうかを評価したい。

評価問題では、「はっぴょうメモ」の枠を大まかに設定し、児童自身が「○」や「→」などの記号を工夫できるように配慮している。カードの内容を順序正しく並べることができるかどうかを見るのと同時に、それぞれの児童の工夫や習熟の程度を判断する資料となるようにした。評価問題に取り組ませる際には、題意を丁寧に説明し、必要な場合は助言を与えるなどしながら無理なく進めるようにしたい。

本時の流れへ

授業展開例へ

単元の流れへ

HOME